

会 議 録

1 会議名

平成29年度 第7回和田区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

（1）地域活動支援事業 募集要項及び審査採択の基本的なルールについて（公開）

（2）自主的審議事項 雪を生かした地域づくりの推進について（公開）

（3）編集委員について（公開）

3 開催日時

平成30年3月15日（木） 午後7時2分から午後8時18分まで

4 開催場所

ラーバンセンター 第2・3研修室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委員：水澤俊彦（会長）、橋本 勲（副会長）、有坂正一、泉 幸雄、市橋邦夫、
岩澤 弘、植木泰行、笠原完治、小林春男、高橋善昭、土屋史郎、
前川正治

・事務局：南部まちづくりセンター 佐藤センター長、榎島係長、小林主事

8 発言の内容

【榎島係長】

・秋山委員、平原委員を除く12名の出席があり、上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

・同条例第8条第1項の規定により、議長は水澤会長が務めることを報告

【水澤会長】

・会議の開会を宣言

- ・会議録の確認：泉委員に依頼

次第2「議題等の確認」について、事務局に説明を求める。

【佐藤センター長】

資料により説明。

【水澤会長】

事務局の説明について、質疑を求めるがなし。

—地域活動支援事業 募集要項及び審査採択の基本的なルールについて—

【水澤会長】

次第3報告(1)「地域活動支援事業 募集要項及び審査採択の基本的なルールについて」、事務局に説明を求める。

【榎島係長】

資料No.1により説明。

【水澤会長】

事務局の説明について、質疑を求めるがなし。

—自主的審議事項 雪を生かした地域づくりの推進について—

【水澤会長】

次第4議題(1)「自主的審議事項 雪を生かした地域づくりの推進について」に入る。

高士地区雪まつり実行委員会のヒアリング、和田区における実行委員会の立ち上げ、もう一つの自主的審議事項「住民組織の充実と地域活性化について」との関連性について審議していきたい。

私と橋本副会長が代表し、3月1日に高士地区雪まつり実行委員会へ視察研修してきた。ヒアリングで聞いてきた概要は次のとおり。

- ・灯の回廊を開いた中で和田区に一番近い高士地区では、実行委員会を立ち上げ

地域活動支援事業費補助金を受けて、今年3回目となる高士ルミネという雪まつりイベントを開催した。

- ・高士区地域協議会が地域活動支援事業の活用を促すために、高士区の各団体へ声を掛け集まったのがきっかけで、冬のイベントのための実行委員会を立ち上げた。実行委員会は、冬のイベントだけのためのもの。
- ・実行委員会メンバーは、消防団のほか、ママさんバレー、PTA、幼年野球の保護者など地域の若い人たち。
- ・冬の時期に開催することは本当に大変で、今年は天候がかなり悪かったが、地域の外からたくさん来ていただいた。
- ・今の実行委員会のメンバーも若いですが、毎年、歳を重ねていくので、もっと若い人たちを取り込み引き継いでいくために、頑張っている。
- ・今年は雪が多かったが、毎年このように降るわけではないので、雪が少ない時の不安が伴う。
- ・設営から撤去までを、当日一日で全て行うことから、若い人でないとできないし、地域の若い人たちのパワーで開催できている。
- ・当日のスタッフは、男性50～60人、女性20人程度。

話を聞いて、若い人たちで準備していることが、今年3回目までしっかりと開催できている原動力だと思った。

【橋本副会長】

会長がだいたい話したが、補足する。

- ・高士ルミネに関し、集客のために地元農産物を携え、東京にPRに出向き、宣伝した。
- ・実行委員会を立ち上げ、若いメンバーで取り組むことを通じて、いろいろな能力がある方を見つけることができる。
- ・最初は、その道のプロに手伝ってもらうことが大事。

このようなことも、話された。

【水澤会長】

私たちは、雪に関わることを自主的審議しており、先般は雪イベントをするという意見が多かったが、高士ルミネの実行委員会の話を聞いて、私たち委員が実行委員会の中に入って取り組むのもよいが、率先して取り組んでくれる若い人たちをどう見つけ出すかということの方が先ではないかと感じた。

もう一つの住民組織についての自主的審議事項との関係で、和田地区の若い人たち、消防団和田分団は6消防部あり大きな組織で人数も多いが、どんなまとまりがあるか興味を持ったし、他に和田区の若い人たちの組織が私にはなかなか見えてない。区内で若い人たちが組織している組織はあるか、町内単位の青年会は残っているか。

【有坂委員】

あまり聞かない。大和2丁目にはない。

【水澤会長】

大和地区の町内では聞かない。和田地区はどうか。

【小林委員】

だいぶ前になくなった。

【水澤会長】

もともとは町内単位で青年会はあったか。

【有坂委員】

もうほとんどないのでは。

【橋本副会長】

大和もないか。

【有坂委員】

大和もない。確かないと思う。

1丁目もないでしょう。

【水澤会長】

5、6丁目は。

【高橋委員】

だいぶ前に解散した。

【水澤会長】

わかばクラブだったか。

【高橋委員】

そのとおり。

【水澤会長】

どこも状況は一緒だと思う。その中でどのように進めていけばよいか。和田区で雪まつりイベントを実施する場合、実行委員会の立ち上げでどのような人に声かけをするか、どのような人がリーダーになったらできるか、非常に雲をつかむような話。

【前川委員】

前回会議で、誰が協力してくれるかということで、水澤会長から和田地区振興協議会に話をしてみるようになっていた。振興協議会へ話を出した時の、先方の意見、どのような形になったのか、聞きたい。

【水澤会長】

和田地区振興協議会の役員会の席で話したが、拙速に慌ててすべきではないのではないかという話が出た。今の振興協議会の組織でイベントを計画し実施したとしても、続けていけるかどうかということ。

私も高士ルミネの実行委員長に会い、若い世代が率先して実施し、その先も続けていけるという確信を持つように、若い人たちが関わっていかないと続かないのではないかという感じがした。

和田地区振興協議会は、バックアップしたり、そこに入っている町内会長から町内にいろいろ働きかけをしたりできる。ただ、やはり中心になる若い人たちを探さなくては行けないと、非常に強く感じた。

実行委員会を立ち上げるまでの間は、少し時間がかかるかもしれないが、委員が和田区における若い人たちの活動団体やリーダー的な存在の人を探していく方がよいのではないかと思うが、いかがか。

【橋本副会長】

雪のイベントを進めようと議論してきたが、若い人がよいだらうということで突

き当たっている。

問題は、この事業を進めようとして若い方を探そうとしているのか、あるいはここで少し止めて人探しをするのか。これによって結果に大きな違いが出てくる気がする。その方向性を定めた方がよいのではないか。でも若い人を知っているかと言われても、分からないが。

和田地区振興協議会は、いろいろな分野の方が集まっているので、各部門のリーダーがどのような考えをされているか、本当は聞きたかった。

今の和田では、人探しをするにしてもその方々が一番よいのではないかなど。事業を始める時に、高士ではいろいろな企業や団体が協力してくれたという話のとおり、その辺である。方向をどちらかにしないと。

【水澤会長】

雪に関わるということから、雪のイベントという方向になったと思う。雪というテーマから行きつくところは、やはり雪イベントなのだろうか。

【高橋委員】

もしイベントができるなら、あえて雪にこだわる必要はないと思う。雪にしてみようと、雪がなければできない。雪を外せば、若い人からもっといろいろな意見が出て、わーわー言いながらイベントに向かって行けるし、その方が本人たちも楽しいと思う。

「おまんた、雪のイベントやんない。」と言われて、それであるのとは違ってくると思う。

【小林委員】

先にイベントありきで、誰かにしてくれと言ってもなかなか引き受け手がないという気がする。

活性化のために、活動してくださるサークルのようなものを先に立ち上げる方がよい気がするし、幅広い層から参加してもらえるのがベターだと思う。

各町内や地域には、いろいろなサークルがあると思う。木島なら、消防団木島消防部、旅行だけを目的としたサークル、消防団OBがサークルを作り花見などをしている。もちろん老人会もあるし、ゴルフクラブ、ゲートボールクラブもある。あ

とは子ども会やPTAなどにも声を掛けて、賛同してもらえる人に集まってもらうなど。

ただ「どうですか」だけではなかなか難しいので、ターゲットを絞ってサークルの代表にお願いし、参加を働きかけるのがよいのではないかと。

【笠原委員】

私は目的ありきだと思う。

地域協議会委員が、どうしたら和田が元気を出せるか、どうしたら地域を興せるかと願うのなら、どのような目的で和田を興していくかまず意思統一し、それから相手探しになるのだろう。

私はもう雪だと思う。雪は嫌でも一生のつきあいで、これをツールにすれば和田らしさが出ると思ったから、もう雪で決まったのかなと思った。今日は実行委員をどうするか議論するだけだと思っていた。

やはり地域協議会として目的がないと、人を説得できない。

高士区地域協議会は、実行委員長になるキーパーソンに行きつくまで、色々な所に説明するなど、ものすごく努力していると推測できる。その努力を我々はしなくてはいけない。

その努力をして相手を探す、相手がいなければ作ればよい。やはりここで、目的を明確にしてはどうか。

【橋本副会長】

笠原委員の言われるとおりで、その目的は雪である。雪に関わることで、どのようなことができるかという点がこれから進めていこうという部分。私は、テーマは雪だと思っていた。

【笠原委員】

だから雪室なのか。

【橋本副会長】

雪室も一つの。

【笠原委員】

雪合戦、冬の運動会、そういうことで地域を興すというキーワードですね。

【橋本副会長】

そのとおり。問題は地域を興さないと駄目だということ。

【笠原委員】

そう、そこである。

【橋本副会長】

目的の話が出たから話すが、雪となればいろいろなテーマを議論できる。地域協議会が中心になり、雪へのアプローチの仕方を議論しなければならないと思っていたし、今も思っている。

テーマは雪だと思っているが、いかがか。

【笠原委員】

どのように利用し生かしていくか、それによって今後の議論を絞り込んでいくことでよいのではないか。

【水澤会長】

雪をテーマに自主的審議することは、私たち委員で決めたこと。先回は雪のイベントについて話し合ったが、雪の時期の問題もある。

雪に関わり、人材発掘や実行委員会立ち上げを行うことが、本当に地域おこし、まちづくりにつながる部分だと思う。

高士区地域協議会も、皆さんを集めて何かをしてくださいというところから始めた。そこに高士ルミネの実行委員長になる方が手を挙げた。それを後押ししたのは地域協議会委員の方々。

そのような形で、私たちも実行委員会の立ち上げに向けて、いろいろ努力していきたいと考える。ただ、どんな方法で進めていくか決めておかないといけない。目的やテーマを雪として、地域の若い人たちにどのように投げかけるか、例えば私たち委員と懇談会を開くなどすることが必要だと思うのだが。

【橋本副会長】

会長から、和田地区振興協議会へ話をしてもらったが、その各部門のリーダーの意見はどのようなものだったか。

【水澤会長】

和田地区振興協議会は、町内会長会、商工会、農対、農家組合長会、土地改良区で構成されているため、正直若い人はいない。商工会の中にはいるのだが。

若い事業者の会なら大和倶楽部に30代、40代の人もあるし、他にも若い人たちの会もあると思う。消防団和田分団がどのように消防部を取りまとめているのか興味もある。

【橋本副会長】

その話をした時に、雪をテーマにと話したと思うが、それに対し「雪は駄目だ」というような返事はあったか。

【水澤会長】

そのような返事はなかった。

【橋本副会長】

なかったとすれば、私は雪がテーマだと思っているのだが、それについてどのような意見をお持ちなのか。積極的に乗ってくる方がいるのか、いなければこちらからアプローチするかということもある。テーマさえ決まっていれば、こちらからアプローチするようなこともしないと。

若い人だけでなく、若くなくても長けている方もおられる気がする。そのような方の意見があれば聞きたかったし、なければこちらから仕掛けていくことも考えないと。そうしないと、やめるやめないの話にまでなっていく気がして仕方がない。

ただ、してくださいと言っても、分かりましたと言う人はいない。

【水澤会長】

そうですね。

【小林委員】

雪に関し、例えば雪まつりやキャンドルロードなどをしましょうということ、もう決めてあるのですね。それとも違うのか。

【水澤会長】

いや、違う。

【小林委員】

単純に雪の関係で、という理解でよいのか。もっと具体的に、こういうイベント

を、という話なのか。

【高橋委員】

灯の回廊で、各会場で開いているようなものを、駅前でできたらよいのではないかと。

【小林委員】

そこまで絞られているなら、我々が協力しながらどなたかにリーダーをお願いし、そこから広げていく形を取れば、できないことはないし協力してくれる方はいるのではないかと。ただ、それだと一回きりで終わりになると思う。

だから、継続的に続けていくならそのような組織を作らなければいけないと思う。その中で話し合い、イベントをし、議論してもらった方が、よいと考えている。

【水澤会長】

関連して、3月4日にユートピアくびき希望館で開催された地域活動フォーラムで、中郷区の若い人たちによる活動報告があった。若い人たちだけで、子育て世代ということもあり中学生、小学生との関わりを持ちながら夏祭りを開いているという話だった。

そこでは、地域といろいろな関わりがあるのだが、町内会の先輩方は一切口を出さずに見守るだけ、全部任せてもらえるような組織づくり、若い人たちだけの組織づくりをして、成功したという話があった。

老若男女誰もがみんなに関わることも大切だが、いろいろ協力はするけど若い人たちに全部任せられる、そんな若い人たちの組織が地域にあればよいと思う。昔で言うと青年団組織のようなものか。

ただ昔に戻るのではなく、今の若い人たちがしたいこと、地域の子育て世代や独身の人たちなど若い人たちが、そのようなところに関わってもらえれば、非常に嬉しく思う。

地域にどのような若い人がいるのかピックアップし、私たちが雪に関する自主的審議をしていることを訴え、一緒に話に乗ってもらえるような場面を作ったらどうかと思う。

それには、委員全員で向かって難しいと思うので、私も消防部や分団の人たち

のことを聞いてもいるので、そのような組織として動けるか、一緒にひざを交えて話ができるかどうか動いてみたいと思う。

皆さんがよければ私に一任いただき、和田区の若い人たちをピックアップし、同じテーブルについてもらえるか動きたいが、いかがか。

また、手伝いなどお願いするとは思いますが、協力いただきたい。それから地域や町内にこんな人がいるという情報があればいただきたい。

いかがか。

(「結構です」の声あり)

【水澤会長】

そこからスタートしたらどうかと思う。

【高橋委員】

町内の中の組織に若い人がいなくても、その人たちにも話をしてもらえるか。それともなるべく若い人がいた方がよいのか。

【水澤会長】

これから先のことを考えると、できれば若い人がよい。

高士ルミネの実行委員長も、中郷区の発表者も話していたが、50歳の声を聞くと、40代、30代後半という次の世代に少しでも引き継いでいきたいということだった。それができると、いろいろな事業や活動を、ずっと継続してできるのではないかと。

ずっと一人のリーダーが10年20年と居座ったら、そこはたぶんそれで終わってしまうのかもしれない。今の若い世代の人は、私たちよりサイクルが短く、1期2年務めたら次の人に変わるくらい。

うまく回るのは難しいと思うが、それができるのがまた若い人だと思う。私たちが任期4年の中で丸2年が終わろうとしているが、残りの2年の中で急がなくてもよいが、完成することができればよいのではと感じた。

【植木委員】

継続していくということで思いついたが、可能かどうかわからないが、和田小学校と大和小学校のPTA保護者は年代も同じくらいで、将来的にも継続していく組

織なので、イベントのPRをしていったらどうか。

【泉委員】

和田小学校では、PTA会長は1年交代だからほぼ無理。

【水澤会長】

1期1年。1期毎に替わっているのが現状である。

【泉委員】

大和小は分からないが、和田小はそういう体制でずっと。

【水澤会長】

大和小もそんなに長くない。たぶん1期1年、続けても2年くらい。

【有坂委員】

5、6年生の親が会長ということになれば、長くても2年くらいだろう。

【泉委員】

だからPTA会長としての経験が短く、他のイベントに手を出す余裕がないと思う。

【水澤会長】

今の若い世代の方は、当然仕事が中心で、家庭があり、そのあとに地域だという感じは受ける。そんな中で人材探しは大変だろう。昔は小学校PTA役員がOB会のような形でいろいろなことをしていたが、今は若い人たちはなかなかそこまでしていないと思う。

和田区全体を考えた時に、そのように関わってくれる人がいないわけではないと思う。

【泉委員】

PTAに限定してしまうと、役員は総入れ替えだから。

【水澤会長】

どこかでみんな重なってはいるのだろうが。

【市橋委員】

会長に腹案があるようなので、まずその方たちから集まってもらい、話を出してみる。駄目なら駄目で仕方ないと思う。何かアクションを起こさないと進まない。

次に誰、誰と、他の人にも当たるような感じでよいと思う。

【泉委員】

若いと言うが、いくつまでか。青年会議所は50までか。

【水澤会長】

40歳まで。

【有坂委員】

若さは年齢だけではないが、少なくとも老人会に話を持って行っては筋として間違っている。

若い力を出してほしいという希望がある中で、こういうイベントがしたいというものがあり、それにどのような人に集ってもらわなければならないかといったときに、我々のように歳をとってでは動きが鈍く役に立たないだろうということで、若い人の力という話が出ていると思う。

そういった人たちの力を借りる方法の一つとして、PTA組織にまず声を掛けて見る。そこからまた新しい組織があるかもしれない。その組織におんぶに抱っこではなく、そこから意志のある人を集め組織を作っていくかざるを得ないのではないか。

そのようにして、中郷区の例だと、若い人が主体になり祭りをずっと継続的に開いている。

【土屋委員】

中郷区は50歳である。

【有坂委員】

20歳が若くて50歳が年寄りだとか、70歳は若くないのかというと、そんなことはない。そのような意識を持ってしてくれる人がいればそれでよいのではないか。

そのような人を集めて、それで60代以上ばかりで集まったのでは先が見えているので、中に30代、20代、40代の人をどんどん仲間にしていくことで、将来へつなげていくという考えをもっていかなければいけないと思う。

ひとつは先ほどのPTA、消防団には、少なくとも60代、70代の人はいないと思うから、そのようなところに声を掛けて人集めをすることから始めなければい

けないと思う。

【土屋委員】

和田区で運動会をしていますよね。

【水澤会長】

体協が。

【土屋委員】

体協がしているのか。そういうところが、雪のない時期に運動会をしているのだから、その組織が冬にまた雪のイベントをしたらどうかと。単純な考えだが。

【水澤会長】

和田体協は昔から組織としてあり、町内会単位できちんと体協委員を出して組織している。

【橋本副会長】

体協は町内から出ていますよね。

【有坂委員】

そのとおり。町内から出している。

だから、冬のイベントで雪合戦なり冬の運動会を開くとなれば、和田体協に声を掛けて冬もという話に持っていくのも一つの方法かと思う。

【橋本副会長】

若手が多いので。

【有坂委員】

比較的年齢層が。

【笠原委員】

今日の議論の方向性に、私はまだ微妙に勘違いをしているかもしれない。

目星を付けた若い人に、雪を使ってこの地域を盛り上げることができないかと投げかけるのか。目ぼしい団体に、テーマの絞り込みまでしてもらうのか。

私は、それはここでするものだと思っていた。和田区地域協議会の狙いはどのようなイベントなのか。このテーマは、地域の新しいリーダーを作るということと表裏一体なセットの問題である。

だから、地域協議会が論議し、継続性があるテーマまで私たちが整理し提案書にまとめたものを投げかける方がよいのではないかと思う。

1から10まで任せて投げかける方がよさそうだが、地域協議会が目指すテーマに合わなくなるのではないかと思うのだが。

【土屋委員】

笠原委員の言われることもよいと思うが、中郷区の例では若い人たちにこれをしてはと投げかけたのではなく、投げかけたらこれをしたというものだった。

【笠原委員】

結果的にさらっと言うだけで、その間には猛烈な努力があったかもしれない。

私はここでもう少し苦勞をして、テーマを絞り込むことがよいと思う。私たちは和田地区をどうするかといろいろ考えるために14人が集まっている。地域協議会委員は、そのような仕組みを持っているのではないか。

【水澤会長】

してくれる人に丸投げでは駄目だと思う。

【笠原委員】

丸投げ、こんなことを一から考えてくださいと投げようとしているのか。

【水澤会長】

そうではない。協議したものを。

【笠原委員】

しかし、まだ議論は熟していない。どんなイベントにするか、全く話していない。

【水澤会長】

それは、これからこの委員の中で。

【笠原委員】

相手を探し、目星をつけて話をするのと同時に、私たちも一提案として議論していかなければならない。

【有坂委員】

笠原委員の意見も賛成だが、人を集める前に、地域協議会として取り組みたいことを決めてから話をしなければ、集められる人も集められなくなってしまうと思う。

前回までに、こんなものはどうかと話は出たが、どれにするかという話にはなっていない。まず、これに取り組もうというものを決めてから、人集め、動くのが筋ではないかと思う。

【水澤会長】

いろいろな意見が出た。話が出たように、イベントなら灯の回廊とタイアップして開けるぐらいのイベントにするなど、雪イベントにするのかを含め、今後具体的に審議を進めていきたいと思う。このことを諮り、委員全員の了承を得る。

4年の任期のうち2年が終わろうとしている。あっという間に2年が終わった感じがする。

次回の会議は、地域活動支援事業の審査、採択もある。それとともに、今の自主的審議事項についても一度詰めていきたいと思う。忙しいとは思いますが、頭の片隅に入れて、考えていただければと思う。

—編集委員について—

【水澤会長】

次第4議題（2）「編集委員について」、事務局に説明を求める。

【榎島係長】

- ・初回会議で編集委員について決めた
- ・人数3人、任期1年。正副会長を除き1年交代で名簿順
- ・初年、秋山委員、有坂委員、泉委員。
- ・2年目、市橋委員、岩澤委員、植木委員。
- ・次の3年目の委員を決めてほしい、名簿順では笠原委員、小林委員、高橋委員。

【水澤会長】

事務局の説明について、質疑を求める。

【高橋委員】

編集委員の仕事内容は。

【水澤会長】

協議会だよりの編集。

三委員に就任を依頼し、笠原委員、小林委員、高橋委員の了承を得る。

—事務連絡—

【水澤会長】

事務局に事務連絡を求める。

【佐藤センター長】

- ・ 次回の日程：5月17日（木） 午後6時30分 ラーバンセンター

＊地域活動支援事業の審査・採択を予定

支援事業の提案件数が多い場合は、開催時刻を午後6時とする場合あり

- ・ 配布資料

感謝の集い 体験と雪室講話の案内（安塚区ゆきだるま財団）

今泉城跡の大ケヤキ保護活用事業情報誌（上越妙高駅と共に歩む会）

ウィズじょうえつからのおたより

地域活動フォーラム資料

【榎島係長】

雪だるま財団からの案内について、関心のある方は是非申込みを。

【水澤会長】

これは直接申し込めばよいか。

【榎島係長】

はい。

【水澤会長】

3月20日（火）、都合がつく委員は是非。

事務局の説明について、他に質疑を求めるがなし。

- ・ 会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 南部まちづくりセンター

TEL : 025-522-8831 (直通)

E-mail : nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせて御覧ください。